

あわみなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、幸多き新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

旧年中は「あわみなと通信」をご愛読いただきまして、誠にありがとうございました。本年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、日本への台風の上陸数が12年ぶりにゼロの年でした。気象庁によると1951年の統計開始以降70年間で、台風の上陸数がゼロだったのは84年、86年、00年、08年、20年のたった5回だけのようです。ただ、昨年は台風の上陸こそなかったものの7月豪雨によって九州などに甚大な被害をもたらしました。また、昨年の世相を表す漢字が「密」であったように、新型コロナウイルス感染拡大防止への対策に追われた1年でもありました。

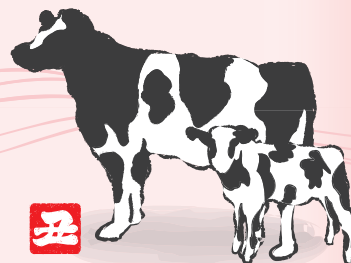
当事務所の昨年の目玉ニュースは、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」で実施した徳島小松島港沖洲(外)地区の防波堤整備が3月に完成し、沖洲フェリー耐震強化岸壁(水深8.5m)事業が完了したことです。岸壁本体は2015年に完成し供用を開始していましたが、岸壁前面の静穏度を確保するための防波堤整備が未完成であったため、2018年台風21号でフェリーターミナルが写真のような浸水被害を受けてしまいました。しかし、防波堤完成後に来襲した2019年台風19号に対しては前年と同規模の台風でありながら被害を受けることはありませんでした。

また、徳島小松島港の金磯地区、本港地区、沖洲(外)地区においては、老朽化した港湾施設の大規模修繕を行っているところです。

昨年12月に政府は、2021年度を初年度とする「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を閣議決定しました。これは2020年度末で期限を迎える「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」に引き続き、気候変動で激甚化する自然災害への対策に加え、先ほど紹介した私どもが実施しているインフラの老朽化対策を盛り込んだものとなっています。早期の完成を目指して、港湾物流がより効率的に行われるようしっかり老朽化対策を行ってまいります。

最後になりますが、1月末には私どもの事務所が「小松島みなと合同庁舎」へ移転することとなっております。気持ちを新たに地域のためになる社会基盤整備を事務所一丸となって取り組んでいく所存ですので、引き続きよろしくお願い致します。

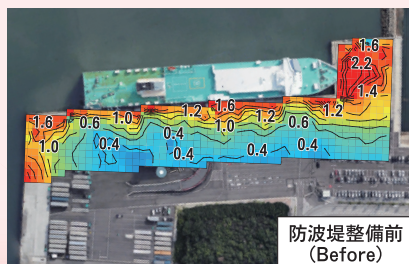
小松島港湾・空港整備事務所 新見 泰之



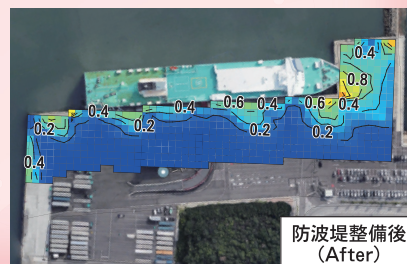
五



2018年台風第21号により浸水した
沖洲のフェリーターミナル

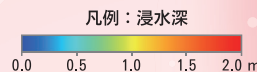


防波堤整備前
(Before)



防波堤整備後
(After)

2018年台風21号の再現シミュレーションを実施。
防波堤整備によりターミナルの浸水的大幅軽減が確認できています。



建設後約60年の老朽化した岸壁のリニューアル工事に着手！ 小松島市長らをお招きし本港地区現場視察会を開催しました

12月24日、徳島小松島港本港地区岸壁(水深9m)のリニューアル工事に着手したことを受け、関係者において現場視察会を開催しました。

視察会では小松島市長様をはじめ、当該施設利用者の代表として、共同港運株式会社代表取締役会長様、日本通運株式会社四国支店小松島事業所長様にご臨席いただきました。

視察会では小松島市長様より「小松島市は四国東端の港町として栄え、市にとって港は最も核となるもの。(早期に利用再開できれば)賑わい創出のためにより積極的に施設を活用したい。」、利用者の方々からは「早期の施設改良をよろしく願います。」「工事着工と聞き感謝している。利用再開後は、本港地区での賑わい創出、貨物集荷の再開に向けて利用者としても準備を進める。」など、早期の岸壁利用再開を希望するコメントをいただきました。

本施設は、昭和35年に供用を開始して以降、主にセメント、化学肥料等の貨物を取り扱い、徳島県の物流を支えるとともに、例年「にっぽん丸」が寄港し、地元経済の発展や活性化に寄与してきました。しかしながら建設後約60年が経過し、施設の老朽化(床版の劣化等)が進み、平成30年9月には全面的に荷役禁止措置がとられ、荷役やクルーズ船の寄港が出来ない状態となっております。

これを受け当事務所ではこれまで、施設改良に向けた調査設計を進め、令和2年11月に現地工事に着手しました。本施設の早期利用再開に向け、引き続き事業を推進して参ります。

なお本視察会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施した上で開催しました。



ご挨拶いただく小松島市長



工事箇所の現状を視察



起重機船による老朽化した床版ブロックの撤去状況

小松島港湾・空港整備事務所 庁舎移転のお知らせ

本年1月末をもちまして、小松島港湾・空港整備事務所は近隣の「小松島みなと合同庁舎」へ移転する事となりました。

小松島港湾・空港整備事務所は旧運輸省時代の昭和62年より、現庁舎にて小松島ならびに徳島の数々の港湾整備等を実施し、地域経済の発展のため尽力して参りました。

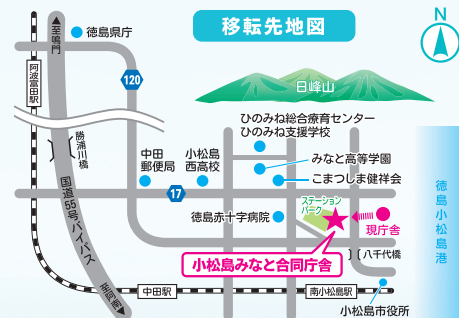
令和3年2月からは新庁舎に機能を移転し、引き続き事業を推進して参ります。

関係者の皆さまにおかれましては、引き続き新庁舎にてご厚誼賜りますようお願い申し上げます。

現庁舎での業務は令和3年1月29日(金)まで、新庁舎での業務は令和3年2月1日(月)より開始いたします。

新庁舎のご案内
※電話番号は変更なし

〒773-0001 徳島県小松島市小松島町字外開1-11
小松島みなと合同庁舎 2階 ☎0885-32-3356(代)



約34年もの間、徳島の港を支えてきた現庁舎



移転先の「小松島みなと合同庁舎」

橘港においてドローンによる操作訓練を実施！ ～防災エキスパートの皆さんと災害時の港湾施設点検の訓練を行いました～

災害時における被災状況の速やかな把握や、常時における港湾施設の維持管理や広報活動にも有効である「ドローン」を、いつでも職員が操作できるように習熟すべき事項として、事務所の訓練計画にも盛り込んでいます。

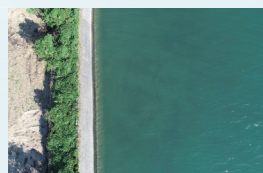
今年度は、10月13日に橘港において、防災エキスパートの皆さんと職員合同による、ドローン操作訓練を実施しました。

現地では、ドローンの基本的な操作のほか、実際に災害を想定して護岸法線上をゆっくりと飛行し、被災箇所の特定、被災程度の把握を意識した訓練を行いました。

今後も、常時から活用(訓練、維持管理、広報等)することで習熟度を上げ、災害時に有効活用出来るよう備えたいと思います。



操縦訓練の様子をドローンから撮影



訓練で護岸法線を撮影



ぼくの名前は「こまぼん」。小松島港湾・空港整備事務所のマスコットキャラクターだよ。タヌキの耳としっぽが目印。一般公募によって名前がつけられたんだ。

徳島小松島港の歴史<シリーズ>

平成30年に外国との貿易が開始されてから70周年を迎えた歴史ある港「徳島小松島港」の歴史と変遷をお届けする「徳島小松島港の歴史」シリーズ。

前回(vol.49)は小松島港区の江戸時代以前～昭和初期までをお届けしました。今回は引き続き、「小松島港区の歴史と変遷(その2)」をお届けします!

今回は比較的近年の歴史の紹介であるため、懐かしく思われる方々も多いのではないのでしょうか!?



現在の徳島小松島港

第2回 小松島港区の歴史と変遷(その2)

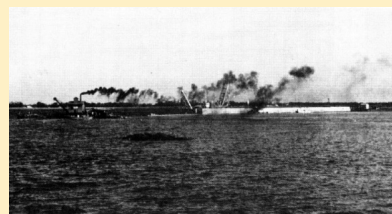
出典：小松島港湾・空港整備事務所40年誌

(1) 昭和中期～昭和末期

昭和39年1月、徳島地区が新産業都市に指定されたのを契機に同年4月重要港湾「小松島港」と地方港湾「徳島港」を統合して、重要港湾「小松島港」に指定されました。その後、それぞれを「小松島港区」「徳島港区」と呼称しています。

小松島港区の港湾整備として、昭和35年に1万トン岸壁(水深9m)が整備され、外貿基地として利用されてきましたが、新港(現本港)地区は水域が狭隘であるため、増大する貨物に対応するための新しい要請にこたえることができなくなり、これらに対処するため昭和39年7月港湾計画を改訂し、新しく金磯地区に1万トン岸壁(水深9m)、1.5万トン岸壁(水深11m)を構える外貿埠頭を建設しました。

本港地区は小松島港発祥の地であり、明治以降は本格的な港湾建設や鉄道の敷設により鉄車連結拠点として、さらには徳島県の玄関港として大いに賑わいました。しかしながら、国鉄小松島線が昭和60年3月に廃止され、平成11年には南海フェリーの小松島港 - 和歌山港航路が廃止され、徳島港 - 和歌山港に航路変更となりました。



金磯1万トン岸壁建設時の様子



旧国鉄と南海フェリーで賑わう小松島港(新港地区)

(2) 平成初期～現在

赤石地区では、平成7年3月から本県の本格的な外貿拠点となる多目的国際ターミナルの整備を進めるとともに、港湾ゾーンと周辺地域との調和を図るためのスポーツ・レクリエーションゾーンとなる緑地を整備しました。

平成13年7月には、県内最大となる4万トン級岸壁(水深13m)の供用を開始。平成18年4月には1万トン級岸壁(水深10m)の供用を開始し、船舶の大型化に対応するため、平成23年にコンテナターミナルを沖洲地区から赤石地区へと移転しました。

赤石地区は大水深岸壁(水深10mおよび13m)を有していることから、大型船の同時係留が可能であり、徳島県の貿易拠点となっています。現在では、コンテナ船と貨物船の同時荷役が見られるなど、県内の経済や地元産業を支える地区となっています。

本港地区では、現在は内航船の利用が盛んです。また、みなとオアシスやしおかぜ公園などの賑わい施設が整備され、新たな利用形態を成しています。



平成11年4月2日 南海フェリーお別れ式



現在の赤石地区(令和元年6月撮影)

▶NEXT 第3回は、徳島港区の歴史と変遷(その1)をお届けします。

みなと通信

MINATO Photo Contest

みなとフォトコン



うみがめの公衆電話

美波町にあるうみがめ博物館カレッタでは、入り口付近にうみがめの公衆電話があります。

2021年初日の出

赤石地区ガントリークレーンの上空に昇った初日の出を小松島みなとオアシスのボードウォークから拝み、新たな門出を迎えることができました。



事務所職員コラム

企画調整課の米原です。現在小松島市において、市内で働く若手を集め、「小松島の遊休資源の活用」をテーマにした「小松島共創型人材育成合同研修」を開催しており、私も一研修生として参加させていただいています。

これまで3回目のグループワークが終了しており、フィールドワーク(小松島の遊休資源の探索)、ワークショップ(各グループで対象資源やターゲットを決め、プロジェクトを練る)を行ってきました。

最終的には各グループが考えたプロジェクトを中山市長などにプレゼンテーションする予定となっています。

港に関連した資源としては、「小松島みなとオアシス」や「老朽化した倉庫」があります。また小松島はクルーズ船が寄港する地区でもあります。こういった資源や利点を活かし、小松島をどのように盛り上げていけるか、しっかり議論していきます。



01 STEP



どんな遊休資源があるか？
まずは市内を探索しました。
(写真は港付近の老朽化した倉庫)

02 STEP



「遊休資源をどう活かすか」
グループごとに議論しました

03 STEP



各グループで考えた案を発表！

出前講座の申し込み受付中！

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座(みなと学習、環境学習、防災学習)を開講しています。

楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。



出前講座、現場見学のお問い合わせは・・・

当事務所 TEL (0885)-32-3855

または ホームページ「暮らしを支える港湾と空港の話」
<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>
よりお問い合わせください。



事務所ホームページQRコード